



NO.417

R4年4月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

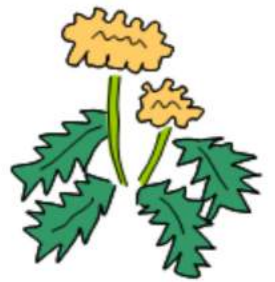
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



事業計画（一部抜粋）

理事長 松田 健



◎侵略行為の報道は、耳を塞ぎ、目を覆いたくなります。今後どんな世の中になるのでしょうか。コロナウィルス感染症も3年目に入ると虚無感にとらわれてしまいます。いつまで続くのでしょうか。そんな心持では管理者として失格なので、少しでも明るい兆しが差すように日々利用者、親御さん、職員の皆さんに感謝しながら励ましていきたいと思っています。

国内に目を向けると、高齢者や障がい者を標的とする詐欺事件の増加、孤立死の増加、身近に相談する人がいないといった孤立や孤独の問題など、地域で困っている人が急増しています。家庭での虐待、DV、貧困の問題、老々介護、ヤングケアラー、

親子介護、8050問題、セルフネグレクトなど枚挙にいとまがないほどです。私は、相談業務をさせていただいていますが、地域の方の中に家庭環境が厳しく苦しんでいる方が多くおられます。6人に一人は相対的貧困であると言われています。格差社会と言われる所以です。ご飯も食べることができない家庭や面前DV、元親から受けた暴力のトラウマ、親が自傷行為を子どもの前でするといったことに直面します。いろんな機関に報告してもなかなか動いてくれないケースもあります。日常茶飯事の出来事となりつつあります。

会福祉法人として地域への貢献をしていくことは絶対的使命感です。子ども食堂を行ってききましたが、さらに力を入れていきます。一人暮らしの高齢者の安否確認などの見守り事業についても検討していきたいと思っています。福祉についてより考える一年にしたいと思います。

◎新型コロナウイルス感染症によってすべてのことが変化しました。令和4年度においてもその影響は著しいものになりそうです。感染の不安は今後も当面はあり続けると思います。その間、人々の行動や生活を制限し続けるのではなく、適切な感染への予防策をとりながら、現実的に生活を営んでいきたいと思っています。

◎（支援に関して）身体的な健康をより意識して生活します。免疫力を高めるため運動（特に散歩）、休養・睡眠・栄養、水分補給等を心がけていきます。徐々に制限の緩和を行っていますが、まだまだ窮屈で閉塞感を伴う状況です。精神的な健康を損なわないように、継続して楽しみをみなさんに提供していきたいと思います。利用者の皆さん、そして親御さんにとって、帰宅できないことがどれほど苦しく、悲しいことなのか、それがわかるような支援者に私はならなければいけません。そして、そんな職員を育てることが、私の使命であると思います。

◎新しい人材が来ないことは事業を継続できないということにつながります。最大の危機に瀕していると云えます。同じ業界、他の業界も同じ状態にあります。このピンチの時に人材確保できる事業所はチャンスの状態にあると云えます。組織のあり方だけでなく働く人一人ひとりの在り方によって打開していくべき問題だと思っています。つまりは、全関係者が真摯に考え、そして問題の抱えている重大性を共有すべきだと考えます。



4月



「こころの健康」

利用者の皆さんにはこの2年コロナウイルスの影響により、思い通りにならない生活をお願いすることばかりでした。そして、様々な社会情勢が今後、どのような影響を及ぼすのかも不透明なところでもあります。そうした中でも新しい季節になり、新年度を迎えます。1班の利用者の皆さんも、この2年で少しずつではありますが、生活様式の変化も受け入れて頂けるようになりました。「からだの健康」は現在、保ってもらっています。

しかし、次の心配は、「こころの健康」はどうなのかという点です。入所の方は、帰宅ができないこと、帰宅ができて今までの生活ができないことで、鬱憤が溜まっているのではないかと思います。在宅の方も予防の観点から、今までの日常生活とはいかなくなっています。今年度は、「こころの健康」とどう向き合っていくのか、日々の支援の中で、班員全員で模索しなければならぬと感じます。

副主任 小城 崇

「歩いて行こう」

今年度の2班は、昨年度途中から新たに生活介護の方1名を迎え入れ利用者の方25名、支援員は新卒のフレッシュな男性支援員が1名加わり10名となり、総勢35名でスタートを切りました。ここ数年、新型コロナウイルス、コロナ禍という言葉を目にする生活に慣れてきている中、日々の外出制限はやはり慣れることは出来ません。よって、心身ともに疲れきっている中で、今年度の班のテーマを「歩いていこう」と掲げました。毎日、顔を合わせる利用者の皆さん、支援員含め、同じ顔ぶれだからこそ、お互いの心身の健康状態を把握することができ、何かあれば助け合える1つのチームが2班だと思っています。総勢35名の仲間が居るから、日々、切磋琢磨しながら、新型コロナウイルスに負けないよう心身ともに鍛えて、毎日のように笑顔を見せあえるチームであり続けられるように取り組んでいきます。

副主任 松村雄一



「頑張ろう3班」

あっという間に春がやってきました。今年度の3班は2月より新規の方を1名受け入れ、利用者25名、そして今年も新人スタッフ1名を迎え入れスタッフ10名でスタートを切ります。

今年度の3班のテーマは「頑張ろう 3班」です。現在も新型コロナウイルスの影響で外出など屋外での活動がなかなかできないという生活を強いられています。新型コロナウイルスとの戦いは続きますが、昨年の経験を活かし、利用者さんとスタッフが協同して前進できたらと思っています。

昨年度より3班のリーダーを務めさせていただいています。昨年度の私の目標は友尻陽也の名前と顔を家族の皆さんに覚えていただくというものでした、とは言いつつも、なかなかお会いする機会がなく、今年度も引き続き積極的にトライしていききたいと思います。初心を忘れずに、そして利用者さん、スタッフの居心地の良い3班を作っていきたいです。

副主任 友尻陽也

「新年度に向けて」

春は別れと出会いの季節と言いますが、4班は昨年度支援員が1名勇退されましたが、新たに1名新規の方を受け入れ、利用者11名、スタッフ8名でのスタートになります。

昨年度も新型コロナウイルスが猛威を振るう中、今までと異なる日課、行事に戸惑う利用者さんも多くいらっしゃいました。しかしながら、一昨年度の“経験”もあってか皆さん確実に、1歩ずつではありますが、変化に適應しながら活動に参加されています。

今年度も新型コロナウイルスとの闘いは続くと思います。加えて、世界情勢の変化等、今後どのような世の中になるのか、先の見えない不安が多くあると思います。しかしながら、いつかたどり着くであろう“出口”を信じ、変化に対し、柔軟に対応出来るように班員全員で協力していきたいと思っています。

副主任 清田健士郎



「新年度になりました」

新年度になりました。昨年度途中から1名の方が利用を開始され、利用者15名、スタッフ5名でのスタートになります。

昨年度もコロナウィルスの影響を受け、日課の変更や作業の減少等ありましたが創作活動の取り組みを行い、利用者の方とスタッフが一緒になって楽しめる活動を考えて行ってきました。レクリエーションでも物づくりや映画鑑賞、長距離のドライブなどコロナ対策を行いながら楽しめたと思います。まだコロナウィルスに気を付けた生活になりますが、今年度も昨年度に引き続き利用者の方の混乱を少しでも減らしていきながら、楽しめる活動の提供をしつつ安心して過ごしてもらえるように寄り添って支援していきたいと思っています。

副主任 石原佳奈

BETTER

「楽しく頑張る」

支援員 有馬幸奈

利用し始めて2年になるSさん。とても人見知りで、慣れたスタッフとは話をしますが、他利用者の方に自分から話しかけることはほとんどありませんでした。しかし、4か月程前から、ある利用者の方と一緒に仕事をしたり、休憩時間に一緒にタブレットで好きな動画を見たり、些細なことがきっかけでしたが、笑顔が増え、自ら積極的に話しかけるようになり、時には励ましの言葉を伝えるなど、これまで知らなかった新たなSさんに出会うことができました。以前、利用していた事業所では行き渋りがみられることもありましたが、毎日楽しく通うことができています。Sさんを見ると、とても嬉しく思います。この出来事を通して、就労支援とは単に作業を提供するだけではなく、職場の環境や人間関係を調整していくことも、とても大切な支援だと強く感じました。

これからも仕事を頑張るだけでなく、「意欲的に楽しく」働

けるよう、支援者として意識していきたいと思います。



アンパ

「春」

支援員 黒澤加代子

先日、アンパの皆さんと南阿蘇のアスペクタに桜の花を見に行ってきました。あいにく雨模様で、車窓からの花見でしたが、綺麗なピンクの河津桜が満開で春を感じることができました。様々なことが起こる現代、不安なことも多い中、桜もいろいろなことに耐えながらも、きれいな花を咲かせる為に頑張っているのだなと感じ元気をもらいました。アンパの皆さんも、様々な制限が加わりストレスを抱えながらの生活ですが、現状を受け入れて日々、パンやお菓子作りを頑張られています。今年もできる

ことは僅かですが、皆さんに笑顔の花を咲かせてあげることができるよう活動を増やし、地域の方達にも笑顔の輪を広げられるように努めたいと思います。



事務便り

事務長 寺田逸朗

令和3年度は居住棟にエレベーターを設置しました。

総工費は約二千七百万円

三気の里開設時の設計を担当された環・設計工房様に今回も設計を依頼しました。

令和2年2月に図面ができ、「さあこれから入札!」という段階でまさかの新型コロナウィルス感染症の流行。

園内は感染予防の厳重体制となり計画は延期されました。

その間も車椅子の方は、階段が使えないので屋外の自動車用の通路を使って移動してもらおうという状況が続いていました。令和3年5月、ウィルスに対しての知識や予防法が分かってきたこと、ワクチン接種も始まったことなどから1年遅れで着工。施工を請負っていた宇都宮建設様のご尽力で、期間中事故も感染も起こさず、9月には無事竣工しました。

これでもようやく車椅子など移動が困難な方も無理なく階の上下を移動できる日常が実現しました。

しかしながらバリアフリーを進めるだけでは、安心・安全な生活環境にはまだ不十分で、利用者どうしの接触による転倒を防ぐための動線や居住スペースを分けるなどの対策も必要と考えています。まだまだやることいっぱいです。



療育雑記

ルールへSさんの場合<

主任 森田康之

Sさんは出勤するスタッフを見つけるとテンポ良く拍手をする。(想像の3倍くらい大きな音)1日1度しか見られない行動かつ「おはよう」「こんにちは」と返事をする。納得した表情をされることからSさんの挨拶(のサイン)だと私は認識している。

Sさんがスタッフを見つけたタイミングで拍手が始まる為、時には出勤直後、駐車場から建物に向かっていくときに遠くから拍手が聞こえてくる。生活棟の2階に目を向けるとSさんと目が合う。会釈をすると会釈を返してくれる。

拍手は誰にでもするわけではない。同じ所属班、これまでの担当や一緒に食事をするなど関わる機会が多いスタッフ、外出先のレジの店員などに拍子をする。

拍手の回数は平均4回。スタッフによって2回、6回となんとなく回数が決まっている。連休明けのスタッフには普段より回数が多かったり、

何かを伝えたいときは拍手をせず、一目散にスタッフに駆け寄りたりと数は一定していないものの、拍手の回数が多いスタッフはSさんにとって親密度の高いスタッフではないかと、私は解釈している。一番回数の多いスタッフは朝8時に出勤されるNスタッフ。10回を軽く超える。笑顔になり、拍手の音色も良い気がする。細かい話になるがNスタッフの時には拍手の種類が変わる。右手をくぼませて空間を作り、くぼんだ所を覆うように左手を合わせて叩くことで、より音が響く叩き方になる。

私が学生時代、吹奏楽部で習ったその叩き方をSさんは独自に編み出している。

2年前に担当させて頂くことになり、挨拶の方法を練習したことがある。Sさんのことを知らない方にも意図が伝わりやすい方法を身に付けてほしいと思ったからだ。Sさんは発語がないため、スタッフの挨拶に合わせて会釈をするという流れを提案した。流れはすぐに理解された。

しかし、このやりとりには大きな欠点があった。ひとつはSさんの自発性を損なう方法であったこと。スタッフの挨拶がなければSさんは挨拶を表現することができなくなっ

てしまう。また、Sさんが自ら会釈をしても、相手が気づかなければ意味を成さない。次にSさんよりも先に挨拶するのが至難の技であることであった。Sさんに気づかれないように車を停める場所を変えたり、勤務時間の遅か前に挨拶に行ったり、あれやこれや思いつく限りの場面設定を行い実践したが、ことごとく拍手で迎えられる私が出た。Sさんの中で「拍手=挨拶」という構図が定着している。自発的に挨拶を行うことは尊重したい。Sさんの表現で相手にびっくりしてほしくない。そんな思いを持ちながら、やりとりを繰り返す。②拍手は丁寧(相手手をじっくりさせない)③(外出先では)Sさんの拍手が見られたら、これは挨拶です。と説明する。④相手の返答を受けて挨拶の一連のやりとりを終了とする。この方法は、Sさんが自然体で、かつ相手に伝わるSさん流の挨拶になりつつある。

練習を重ねていく上で、意識したのは挨拶とは本来こうあるべき、こうすべきという通例的な観点を除外することであった。一般的な所作に当てはめようとすると、どうしても

ひずみが発生してしまう。留意した点はひとつだけ「一方通行な挨拶にならないこと」Sさんの表現する意味を相手に伝える。伝われば相手は返答してくれる。Sさん自身にとつて返答されることが拍手の目的ではないのかもしれないが、それでは挨拶とは言えない。相手のリアクションを受け取る。そこが重要なポイントである。伝える→返事を受け取る。この流れは挨拶の枠を超えて、生活のあらゆる場面で現在も取り組みを行っている。

「コミュニケーションとは自分の思いを「送信」するだけではなく相手の思いや返答を「受信」する。それがセットであると考えている。思いを伝えることはひとつの技術である。それと同じくらい相手の思いを受け止めることにも技術が必要である。きっかけは形式に沿ったチグハグなやりとりかもしれないが、継続することで意味を持ち、自然な形になると考えている。今日も賑やかな挨拶からSさんの1日が始まる。



4月スケジュール

- 1日 (金) 新任式・辞令交付式
- 2日 (土) 自閉症啓発デー2022
in 菊陽 (~4/3)
- 8日 (金) 嘱託医来診
- 18日 (月) 田中Drケースカンファレンス
- 20日 (水) 誕生会

毎週月曜日 訪問理容サービス
毎週木曜日 ローソン移動販売
BeTREE
<営業時間> 8:00~18:00

詳しくはインスタで



betree314

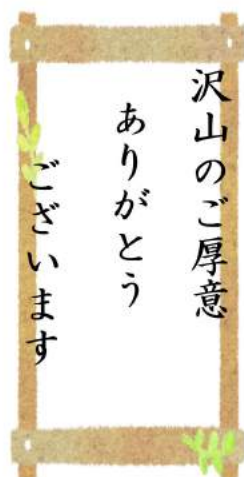
就任式

「はじまりの日」

支援員 植野 希

三気の里自慢の桜が満開に咲き誇り、期待と不安で胸をいっぱいにしながら、今年も無事、新任式を迎えることが出来ました。今年は3名の新任スタッフが加わり、紹介される際には皆さん興味津々で話を聞かれていました。紹介したその日に顔と名前を覚え、お話されている利用者の方もいてとても驚きました。また、併せて昨年度新しく利用を開始された4名の利用者の方の紹介を行いました。少し緊張された様子も見られましたが、前に立つと元氣よく挨拶をされ、利用者の皆さんもスタッフも自然と笑顔になっていました。その後は各班に分かれ、担当スタッフの紹介、顔合わせを行っています。担当が変わらず安堵される方、スタッフの移動で悲しい表情をされる方、その様子は様々でしたが、これから一年間みん

なで一緒に頑張っていこうと改めて一丸となる時間だったと思います。今年もより利用者の皆さんの元氣と笑顔で溢れる一年にしていきたいと心から感じました。



【物品】
三気の里家族会様 松田 泰子様
(株)宇都宮建設様

魚谷 秀文様 金森 保様
宮本 眞一様 櫻木 勇夫様
清田 栄一様 田中 満子様
渡邊 正司様 岡崎 範子様
松村 俊介様 井手上昌子様
小牧 博則様 東坂富士代様

坂梨 清美様 吉田 和信様
亀崎 幸久様

【後援会ありがとうございます】

坂口 正浩様 勇 明子様
江越 和信様 管 智子様
相良 勝郎様 岡崎 勉様
早田 澄江様 坂田 實様
藤野 元嗣様 野崎 明浩様
荒牧 貴子様 福永 敬子様
島津 健二様 橋本 信子様
白井 桂子様 高橋 頌慈様
赤星 一郎様 中島 佐代様
中嶋 久枝様 財賀 由子様
中嶋 美幸様 須加原 翠様
岡田 英俊様 佐藤由美子様
松木 伴良様 坂田多鶴子様
柴田 精三様 藤本栄之助様
藤崎 喜子様 樫本貴美子様
坂井 省英様 山崎日出男様
甲斐 真史様 細田テツ子様
坂本 哲志様 佐々木英征様
松田自動車整備工場様
(有)規工川工務店様
よつば調剤薬局様
菊陽台病院様
(株)グリーンロジスティクス様
みつば学園 施設長 瀧井 喜章様
光行寺様 (株)キンキ様
ダイハツ大津様